



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
 代表 桑波田 和子
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (財)千葉県環境財団環境技術部
 業務管理グループ
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969

第16回 環境シンポジウム2010千葉会議

「明るく豊かな持続可能な社会の実現に向けて
 ～低炭素社会と生物多様性を考える～」

環境シンポジウム2010千葉会議実行委員長 桑波田 和子

環境シンポジウム2010千葉会議は、今年で16回目の開催となります。環境シンポジウムは、市民・企業・大学・行政が協働して、環境教育と環境保全の活動の啓発及び交流を促進し、今後の活動へつながることを期待して開催しています。

今年のテーマは、「明るく豊かな持続可能な社会の実現に向けて～低炭素社会と生物多様性を考える～」です。低炭素社会と生物多様性を一度に考えるにはとても大きなテーマですが、日々の暮らしの中では、別々に考えながら暮らしてはけません。そこで、生活者の視点でどのようにかわっているのか？どのようにとらえていけばよいのか？を考える場としました。

また、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が10月に名古屋において開催されることから、持続可能な社会の実現を、主に生物多様性の切り口から考える内容としました。

基調講演は、地球温暖化と生物多様性について、清水善和氏(駒沢大学教授)です。清水先生の専門は、植物生態学、島嶼(トウゴ)地理学で、小笠原の植物の研究を30年以上にわたり研究されています。小笠原は世界遺産の候補としても、今年のホットなニュースになりました。また、NPO法人樹木・環境ネットワーク(グリーンセイバー)の講師でもあります。

今回の基調講演は低炭素社会と生物多様性のテーマについて、「森から見た地球温暖化と生物多様性」の演題でお話ししていただきます。

事例発表では、①進士氏((株)東京ガス)から、「スマートエネルギーネットワークの推進」について、②手塚氏(夷隅郡市自然を守る会)から、「里山・里海と生物多様性・南房総の現場から」をお聞きします。さらに、当実行委員会が4月と7月に開催しました、太陽光発電住宅(群馬県太田市)と尾瀬での自然保護活動の視察を報告します。

これらの話をもとに、「低炭素と生物多様性」について、パネルディスカッションを行います。コーディネーターの、船木氏((株)博報堂)は、チームマイナス6パーセントにも係わられたそうです。今回の低炭素と生物多様性の2大テーマを同時に考える場として、船木氏のバランスの良さに期待しています。またパネリストには、生活者としての主婦も加わる予定です。

今回のシンポジウムが、私たちが暮らしていく中に、低炭素社会と生物多様性の視点を入れて、明るく豊かな持続可能な社会の実現へ向けていく一助となることを期待して開催しますので、ぜひ多くの方のご参加をお待ちしています。

「環境シンポジウム2010千葉会議」

メインテーマ：「明るく豊かな持続可能な社会の実現に向けて
 ～低炭素社会と生物多様性を考える～」

開催日時 : 平成22年11月20日(土) 13時30～16時45分
 開催場所 : 千葉市生涯学習センター大研修室
 参加費 : 300円(資料代) 参加者数 ; 130名(先着順)
 主催 : 環境シンポジウム2010千葉会議実行委員会
 協賛団体 : 日本大学生産工学部
 後援機関 : 自治体・大学・企業・NPO・報道機関 など
 申し込み・問合せ先 : 環境シンポジウム千葉会議実行委員会事務局
 TEL 090-3817-0698 FAX 047-305-1722
 E-mail : chibakaigi@hotmail.com
 ホームページ : <http://u-shimin.genki365.net/gnku01/pub/sheet.php?id=14520>

エコメッセ2010in ちば

「エコメッセで暮らしを変えよう 生物多様性と地球温暖化」開催のお礼

エコメッセ2010in ちば実行委員長 桑波田 和子

「エコメッセ2010in ちば」は、9月5日に開催し、参加者は10,500人でした。出展団体は、市民団体57、企業37、行政17、大学9と合わせて120団体でした。また、併催シンポジウム「EARTH VISION in CHIBA」も同時開催されました。出展者様及びご来場者の皆さまには、暑い中また、屋内や屋外の展示準備、当日の解説等



ご多忙だったと思います。厚くお礼申し上げます。また、当会の団体会員のご出展や実行委員としてのご協力に感謝申し上げます。

エコメッセは、

出展料、協賛金、ちば環境再生基金等をいただき運営しております。ご出展、ご協賛、ご協力、ご後援をいただきました皆様にも併せて感謝申し上げます。

エコメッセに来場の子どもから大人の方が、出展ブースなどでの体験や解説等を通して、気づきから行動へとつながることを期待し、持続可能な社会を実現するために、今回のエコメッセが生物多様性保全と地球温暖化防止の解決に向けて一役を担えたら幸いです。

皆様のご協力ご支援のもと、エコメッセはこれまで15年間継続して開催することができました。これまでの感謝と今後のさらなる進展のために、市民・企業・行政・大学のパートナーシップのますますの進展を祈念し、お礼のご挨拶とさせていただきます。

千葉の里山・田舎暮らしバザール

実行委員 福満 美代子

エコメッセの一環として、千葉の里山・田舎暮らしバザールが開かれました。

会場は①江戸エコ社会コーナー（江戸時代の循環型社会の紹介展示、江戸時代の行商人の売り声ショーなど）②西千葉エコ商店街コーナー（地域通貨「ピーナッツ」10年の歩み、千葉大生の地域コミュニティとの取り組み紹介など）③里山・田舎暮らし物産コーナー（田舎暮らしをしながら、こだわり産品や陶器、木工品などを制作している団体の紹介と販売）④里山カフェ（休憩・会場内観賞用スペース）と4つのコーナーで構成され、

出展団体数は21団体でした。バザールという名のとおりゴタゴタ感満載でしたが、来場者に楽しそうに説明しながら対応している出展者の方々をみると、私たちエコメッセ実行委員の役割は、主役に演じやすい舞台を提供する裏方だと思いつく思いました。その裏方の仕事を楽しみながらできたことと、無事終了できたことに…感謝です。



併催事業「EARTH VISION in CHIBA ～親子で考える環境と科学技術～」

房総ガス協議会 鹿野 陽子

（財）千葉県環境財団と房総ガス協議会は、9月5日（日）、「EARTH VISION in CHIBA」と題した上映会・シンポジウムを幕張メッセ国際会議場で行い、200名を超える方々にご参加いただきました。

上映会の最初の作品「エコファン」では、資源を使い放題の現代生活をコミカルに考え、その後の「クヌート」では愛らしい姿で真正面からのちや自然の大切さに思いを馳せるきっかけになったのではと思います。

午後のシンポジウムでは、千葉県環境生活部森茂部長様にご挨拶頂いた後、（株）ユニバーサルデザイン総合研究所の赤池学所長による「エネルギ

ーダイバーシティ～暮らしとエネルギーの多様性～」と題した基調講演を行い、最新技術（分散型電源や太陽熱利用等）を中心にご紹介いただきました。“生き物や自然に学ぶ”という赤池氏のお考えが印象的でした。

その後、千葉県出身の宇宙飛行士山崎直子さんからのビデオメッセージと「宇宙＝科学技術＝環境」をテーマに、熊谷俊人千葉市長、JAXA名誉教授的川泰宣氏、赤池学氏による特別対談を行い、大盛況のうちに幕を閉じました。

エコメッセ実行委員会をはじめとした多くの皆様とのパートナーシップにより実現できましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

参加者募集!

企業・NPOによるパートナーシップ事業 「温暖化防止に向けたエネルギー利用に関するまなび会」開催

千葉県環境生活部県民活動・文化課は、今年度、新たに「企業・NPOによるパートナーシップ事業」を実施することになりました。この事業は、県が調整役となり、企業とNPOとのマッチングの機会を提供し、マッチングが成立した事業について、実施状況や成果を広く県民に知らせ、新たな地域活動・事業活動にチャレンジしたい、企業イメージの向上を図りたいと考えている企業、企業との連携を模索しているNPO等の団体に役立てようとするものです。

その仕組みは、NPOから企業が提示した12のテーマに対する企画案を募集し、後日、それをもとに両者の意見交換や企業による審査を行い、マッチングが成立した事業は10月中旬ごろから実施される予定です。

環境パートナーシップちばは、東京ガス株式会社 千葉支店が提出したテーマ「温暖化防止に向

けたエネルギー利用に関する勉強会等の実施」に対し企画書を提出した結果、マッチングが成立し、以下の講座を開催します。ご応募お待ちしております。

事業名称：温暖化防止に向けたエネルギー利用に関するまなび会

まなび会実施予定日：平成22年11月10日
(水) 10時～15時

場所：東京ガス千葉支店（千葉市美浜区幸町）

プログラム：食を切り口として、エコクッキングを体験し、エネルギーの利用について、東京ガス（株）の専門家の講座をお聞きし、意見交換を行う。

参加費：一人当たり1,500円

募集人数：20名（先着順）

応募締切日：10月28日（木）

申し込み先：090-7171-8354（牧内）

e-mail：hmakiuchi@river.sannet.ne.jp

（広報部）

川と沼ですてきな！体験を提案する全国大会 in ちば ～みんなで活動！印旛沼・流域再生～

開催趣旨

本大会は、水辺が持つ恵みの総合的利活用を促進するために、川と沼での癒し効用や機能、その活用の在り方及び環境保全やまちづくりをテーマに行います。

教育・福祉・医療・環境・河川・まちづくりに関連する個人、団体、行政等に所属する人々を対象として、全国で活躍されている方々の事例等を学び、印旛沼や流域河川の再生にも活かすための全国大会を開催するものです。

そして、これまで印旛沼流域水循環健全化会議が毎年度開催している、「印旛沼わいわい会議」とあわせて開催するものです。「印旛沼わいわい会議」は印旛沼における取り組みを知り、一緒に行動していくための住民と行政の意見交換の場として、毎年、開催され実績を上げている会議です。

この会議にかかわりのある市民、行政、専門家、大学などを含め、全国的な主体からなる実行委員会を開催して、市民主導型の協働的体制のもとに、検討会議を重ね本全国大会の準備を進めていますので、印旛沼への関心を深め、交流の場とするため、みなさまの積極的なご参加をいただけますようお願い申し上げます。なお、詳細は、以下をご覧ください。

http://www.geocities.jp/zenkokutaiikai_chiba/

日時・会場・内容

- 1) 日時：10月8日(金) 13時～17時
会場：ホテルプラザ菜の花（千葉県庁向い）
内容：★印旛沼の紹介★基調講演
★水辺の市町長サミット★パネル展示
- 2) 日時：10月9日(土) 9時15分～17時
会場：ホテルプラザ菜の花（千葉県庁向い）
内容：★分科会★全体会★意見交換会
★パネル展示
- 3) 日時：10月10日(日) 10時～14時
会場：西印旛沼（佐倉ふるさと広場）
内容：★カヌー・Eボート体験

お問い合わせ 参加申し込み

千葉県河川環境課

Tel：043-223-3155

Fax：043-221-1950

主催：川と沼ですてきな！体験を提案する全国大会 in ちば 実行委員会

共催：印旛沼流域水循環健全化会議・印旛沼水質保全協議会・利根川治水同盟千葉県支部
(広報部)

平成22年度千葉市エコ体験スクール 花見川の水・生き物調べとわくわく実験

千葉市エコ体験スクールの事業は、環境パートナーシップちばが花見川区民対象の企画運営に手を上げ委託事業の形で今年も活動することができました。今年は、8月5日、児童（41名）、講師・スタッフ（15名）で活動しました。

準備

花見川の生き物、水について調べ、私たちが使用した水がどこに流れどのように処理されているのかを下水処理実験を通して体験する。使用する水を汚さないようにする気持ちを育て、家に帰って親子での対話にもつながるような体験活動を目的として小学3年生以上参加対象とし会場は、花見川コミュニティセンターと花島公園としました。花見川区内小学校に参加募集のチラシを配布、千葉市政だよりに等に掲載して募集しました。往復はがきで応募受け付けたところ76名応募あり、抽選の上、全員に当落結果と当選者には活動の詳細をお知らせしました。

当日の概要

9:20 児童集合 オリエンテーション アイスブレイキング 5班に編成 班ごとに自己紹介とグループ名、役割分担等を決めました。①班：みどり ②班：やつ池 ③班：うさぎ ④班：もり ⑤班：サイエンス、

10:00 花見川の水・生き物しらべ（野外：班活動 5地域に分かれて調べる）

①班：滝口あたり ②班：噴水の池のあたり ③班：鳥の池のあたり ④班：森の中 ⑤班：花見川と、各担当の場所での生き物調査を行いました。はじめは、なかなか生き物を探せないが、木の葉の形や水面にいる虫、地面にあいている穴など、少しずつ興味を示し始めてきました。

11:10 グループでまとめ・報告

各グループ毎に調査した生き物を、班でまとめ報告しました。



班では調べた生き物を、各調査地点の絵に張り付けていきました。

5グループの報告を聞き終わるころには、花島公園の位置関係や生き物のすむ場所の違い等、理解することができました。

11:50 講師のおはなし 高野史郎氏は、生き物を見つけたら、周りの環境、なぜここにこの生き物がいるのか？など、五感を使い気づき、不思議さ、関心を深く持つなど、体感し気づいて欲しいとのお話でした。

13:10 「わくわく！実験」

これは、(財)千葉県下水道公社の独自のプログラムですが、小学生を引き込む話術で興味がわいたのか、真剣に実験に取り組み、全員参加で学び、楽しんでいました。班内でも、役割分担ができて失敗することもなく、参加体験できました。下水道の仕組みをわかりやすく、しかも水を汚さない啓発が広がっていくことを期待しています。

活動の成果



水について学び、自然について感じる体験活動でした。今年の夏は、高温の続く暑い日でしたので、野外活動は1時間以内ということと、水分補給をこまめに行うことに注意して行いました。41名と多くの参加申し込みをいただき、20の小学校の参加者が一緒に活動でき、お互いの良い交流の場になりました。

今年のプログラムの内容は時間的にゆとりがあり子どもたちに支持を得ましたので来年もこのスタイルで続けることを確認しました。

今後の課題

知識だけでなく、生き物がいる環境等注意深く観察できるようなアドバイスをスタッフができるように、事前学習を重ねていく必要があると考えています。

(文責 広報部)

第44回環境パートナーシップエコサロン

「千葉県の海岸漂着物の実態と対策その他について」

講師 千葉県環境生活部 資源循環課 喜多島秀行氏

千葉県では今年から、美しく豊かな海岸の環境保全のための地域計画を作成することになりました。その背景やその際の課題などについて、平成22年8月31日、千葉市民活動センター1F大会議室において、喜多島氏から話を伺いました。

環境省は平成21年7月に、「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律」（海岸漂着物処理推進法）を公布・施行しました。それに基づき、同省は海岸漂着物等の処理等の推進に関する基本方針を平成22年3月に示しました。今後、県では、同基本方針に基づいて千葉県地域計画を作成する予定と伺いました。

今なぜ、海岸漂着ごみなのか？

現在、海岸漂流ごみが海岸を汚しています。その結果、海の生き物、景観、観光、海運、漁業に影響を与えています。さらに、これが海水の汚染、生物多様性の劣化を招いています。

一方、日本中の海岸に漂着するごみの、日本由来の割合は、どうなっているのでしょうか。長崎県対馬地域では18%、福井県坂井市地域では66%、三重県、鳥羽地域では99%、千葉県では99%以上といわれています。この結果は、日本の海を汚していたのは、私たちのごみだったという現実です。千葉県の場合では、河川からの竹や流木が主な、海岸漂着ごみになっているようです。

今後の千葉県の海岸漂着物対策は、①地域計画の



作成（重点取組み地域の決定、作業内容の決定）
②関係主体の役割分担と相互協力、③海岸漂着物対策推進協議会（地域計画の作成）とつながりません。協議会の委員は、県、市民、民間団体、地方公共団体、行政機関あたりから選ばれ、海岸漂着物対策推進協議会を設置して、千葉県海岸漂着物対策地域計画が作成されるのではとされます。多様な主体との適切な役割分担と連携の確保が要といわれています。

ごみを拾う活動などは、市民の関われる重要な部分です。ごみを拾うことで、ごみを発生させない習慣が身につきます。三方が海に囲まれている千葉県では海岸部分でのアダプト制度も実施しています。継続的な海岸線でのごみ拾いは漂着ごみを確実に減らせるのではと期待しています。

（文責：広報部）

ご案内 10月の環境パートナーシップエコサロン

テーマ ー無理だと思ってもやればできるー

日時：10月16日（土） 午後6:00~8:00

場所：千葉市民活動センター大会議室

話題提供者：タン 氏 渋谷幕張高校教諭

内容：北海道から鹿児島までの約3000キロを竹馬で縦断するという突拍子もないチャレンジをした夫婦がいる。その目的は、ボルネオ島の熱帯雨林とそこに住むオランウータンを守るための募金活動をするため。そしてもう一つの目的、それは未来に絶望した子どもたちに、どんなに無理だと思ってもやればできるということを伝えるため。

参加費：500円（資料代）

申し込み：090-5415-9074（桑波田） Email：kuwahatak@hotmail.com

千葉市公民館環境学習講座報告

パック紙すきハガキ作り／犢橋公民館

8月19日、今年も犢橋公民館から環境パートナーシップちばに依頼があり、夏休みの子ども向け環境学習講座「牛乳パック紙すきハガキ作り」を行いました。13名の参加者のうち、昨年も来てくれた子が数名。その中には、8月5日のエコ体験スクールに参加してくれた子が含まれていました。公民館担当者の方も、昨年お世話になった千草公民館から異動してこられた方と伺い、何かとつながりを感じました。

さて、牛乳パック紙すきとは、牛乳パックから紙パルプを取り出し、粉碎・攪拌（かき）してハガキ型に漉（く）き込みます。よく中に押し花などを入れたりしますが、私はお花紙で色をつける、あくまでも「リサイクル工作」の位置づけで行っています。牛乳パックはバージンパルプが使われており、そのまま捨ててはもったいないこと、紙を大切にリサイクルすることは原料である木を大切にすることに繋がるといってお話をしながら、



牛乳パックの表面のラミネートをはがし、パルプを取り出します。事前に煮てあるため、容易にはがせます。子どもたちも牛乳パックのラミネートをはがすと中から真っ白な紙が現れました。ビリビリにやぶき、ミキサーにかけるとふわふわのパルプに変わります。「触ってみたい人？」と聞くと、みんなが手を上げたので全員に触ってもいました。「きもちいい」「ふわふわ」「きもちわるい」それぞれ感想があります。ハガキ1枚分のパルプをお団子にしたものを見せてハガキの作り方を教え、ハガキを作ります。「もっと作ってもいい？」「今度は何色にしようかな」「色はまぜてもいいの？」ハガキ作りは創造力を養う作業だと私は思います。ペットボトルに入れたパルプとお花紙で作るハガキは、作るたびに微妙に出来栄が変わります。同じ色を使っても、世界に1枚の色ハガキになるのです。色のまぜかたでも振り方でも変わります。今年は、昨年と違いアイロンで乾かす作業を取りやめにしました。子どもたちには、ぬれたまま持ち帰ってもらい、自宅の窓に張って乾かしてもらうことで、アイロンをかける労力と電気エネルギーを省きました。今回、このような機会を与えてくださった犢橋公民館の皆様に深く感謝申し上げます。（文責：広田）

「ELCoの会」エコメッセにデビュー

ELCoの会 大西 優子

9月5日、幕張メッセ国際会議場で行われたエコメッセに出展いたしました。

A1サイズの千葉県の白地図に、各会員の担当する地域と簡単なプロフィールに顔写真をつけたA5サイズのを張り巡らしました。また、ELCoの会のチラシを配りながら宣伝をしました。

認知度も低く地味なELCoの会のブースを目立たせるために、彩りを添え動きを作りだそうと、午前は「ペットボトル入れ」、午後は市川市で取り組んでいる「エコたわし」作りをしました。

短時間で作れる「ペットボトル入れ」は、壊れた傘の傘地を使ってマイバッグを作った残りの端切れを使います。ペットボトルの水滴を防ぐことができ持って歩くのに便利です。

お客さん2人の制作を覗き込んでいたガールスカウトの2人が、テーブル前の席が開くのを待って、子どものセンスでかわいい袋を作りました。尋ねると3年生で始めて針をもったとのこと。大喜びでした。

色鮮やかな10色のグラデーションのアクリル毛糸で作った200枚以上の「エコたわし」は人

目を引きました。「洗剤は本当に要らないの」の質問に、油がたたくさんついている場合は雑用紙で拭き取っ



てからと答えながら水浄化の話。

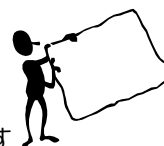
私も使っていると多くの方が声を掛け下さいました。

今年のエコメッセは参加者も多く、家族連れや環境団体に関係のない方の来場者も多かったようです。場内のエコツアーの案内役に高校生も当たっていて、エコメッセも若者に引き継がれてゆくと、心強く感じました。

参加団体の出展も説明も例年より熱がこもっているように思えました。

残念だったのは会場すべてを見て回る事ができなかったことでした。

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 1 — お聞きしました！ この人・この団体



今号から始まります

団体名	：エコネットかまがや	活動地域	：鎌ヶ谷市
活動分野	：温暖化防止	代表	：西川 久雄
活動目的	：地球温暖化防止活動		
主な活動内容	：小学校・公民館等で、温暖化防止に向けた環境講座、マイバック作り		

ELCoの会：桑波田 和子

8月30日（月）「エコネットかまがや」の代表西川久雄氏に、インタビューに出かけました。

インタビューするメンバーは、環境学習コーディネーター育成講座（実証研究）の受講生4名で、育成講座のプログラムの一環です。※1

相変わらず暑い日差しの中、新京成電鉄の初富駅で待ち合わせ、生涯学習センター「まなびいプラザ」に向かいました。そこには、にこやかなお顔の西川さんが出迎えてくださり、和やかに2時間ほどのインタビューをさせていただきました。

「エコネットかまがや」は、平成19年7月に設立した、「地球温暖化防止」を目指した地域活動団体です。会員は、千葉県地球温暖化防止活動推進員が主となり、会員15名で地球温暖化防止をテーマに活動して3年目です。主な活動は、公民館での「マイバック作り」、小学校での「環境講座とソーラー工作」、公共施設などでのグリーンカーテンの実験など、活動年数は短い方ですが、着実に活動されています。

マイバックに使用する傘は、北総鉄道の忘れもので、保管期間の過ぎたものを市クリーン推進課を通して提供されたものだそうです。また、この講座の受講生が次回の講座のスタッフとしても活躍される方もあるなど、お互いにプラスの面があるようです。また、東京電力（株）さんとの協働で、太陽光発電によるオルゴールづくりや、CO2ダイエット宣言、環境イベントへの出展等、精力的にしかも楽しく活動されています。

このような活動が評価され、市との協働事業も始まるそうです。代表の西川さんは、「お互いの信頼が大切！」と話されました。信頼を得るためには活動はもちろんのこと、学校、市役所、公民館等の方とのコミュニケーションもこまめにされているようでした。インタビュー最中も「まなびいプラザ」の方や、訪れた方とも面識が広く、地域に認知されていると感じました。さらに、市民活



動推進センターだよりや、地域新聞等にも活動紹介の記事が掲載されたそうです。

会の運営費は、年会費1,000円、賛助会費5,000円です。賛助会員は、地域のおそば屋さん等だそうです。「たまには、商品のPRもしています！」とのことでした。

インタビューの時間があっという間に過ぎましたが、エコネットかまがやの活動や代表の西川さんを知る良い機会となりました。また、地域に出かけて、鎌ヶ谷市はこんなところ！と体験できるのも楽しく、情報も豊かに満足して帰路につきました。

※1 昨年、当会とGONET、NPO千葉自然学校の3団体と、千葉県との協働事業「環境学習コーディネーター人材育成検討事業」で、育成講座のプログラムを作成しました。協働事業の後にELCoの会（環境学習コーディネーターの会）が設立され、当会は事務局としての窓口も担当しています。今年は、そのプログラムを具体化し、千葉県環境研究センター、千葉工業大学、環境政策課、教育庁指導課、と前3団体の共同研究として、6日間の環境学習コーディネーター育成講座（実証研究）を開催しました。

運営委員会報告

8月運営委員会

日時 平成22年8月27日(金)

場所 八千代市民活動センター

報告

- ① エコメッセ出展者説明会開催
- ② 千葉市エコ体験スクール開催
- ③ だより74号発送済み
- ④ ELCoの会

協議事項

広報部

- ① だより74号について

事業部

- ① 8月エコサロンについて
- ② 10月エコサロンについて
- ③ エコメッセ2010inちば出展内容
- ④ エコウォーキングマップ
- ⑤ ちばしエコ体験スクール反省
- ⑥ IT講習会

お知らせ

廃棄物適正処理を推進するためのシンポジウム《平成22年度第1回シンポジウム》

知ろう、考えよう！私たちの生活と産業廃棄物！～廃棄物の適正処理の推進に向けて～

日時 2010年10月30日(土曜日) 13時～16時15分

場所 千葉市ビジネス支援センター きぼーる(Qiball) 13階会議室

募集人数 150名 費用 無料

内容

(1) 基調講演

演題：「低炭素社会における廃棄物処理の展望」

講師：柏木孝夫氏(東京工業大学統合研究院 教授)

(2) 事例紹介及びパネルディスカッション テーマ：「廃棄物処理の今後の展望について」

コーディネーター：柏木孝夫氏

【申し込み・お問い合わせ先】

千葉県環境生活部資源循環推進課資源循環企画室

電話：043-223-2758 FAX：043-221-3970 Eメール：e-sigen@mz.pref.chiba.lg.jp

◆ 広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP：<http://kanpachiba.com> E-mail: info@kanpachiba.com

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団 環境技術部
環境活動推進チーム気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872 千葉県環境財団

環境技術部 環境活動推進チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		